

当日は市内の消防団員や国土交通省の関係者、浮穴・石井地区の自主防災組織市職員らと、今年は新たに陸上自衛隊第14特科隊と大学生防災リーダークラブのメンバーが加わり、約220人が参加しました。

訓練に先立ち野志市長は「いざという時に備え、今日学んだことを生かしてほしい。まちの防災力強化のために、一人一人の『意識』と『知識』を高めることが大切」とあいさつ。参加者は、市消防局水防工法指導員から、土のう作りや

ロープワークなどを学んだほか、越水・漏水対策として有効な「積土のう工」や「月の輪」などの工法作成にも取り組んでいました。

市消防局水防工法指導員から積土のう工の説明を受ける地域住民



梅雨の出水期を前に水防技術の向上を図ろうと5月15日、森松町の重信川河川敷で水防工法訓練が行われました。

平成28年度
水防工法訓練

いざというときに備え、洪水から身を守る



土のうを積み上げ



ロープワークに取り組む
大学生防災リーダークラブのメンバー



野志市長(中央)も土のうづくりに参加

主な内容

- 選挙権年齢が18歳以上に…… 3面
- 特集 国民健康保険…… 4・5面
- 出産前小児保健指導をご利用ください…… 6面
- えひめ国体文化プログラム事業募集…… 12面
- 市民ガイド…… 7~11面

発行：松山市役所
編集：総合政策部シティプロモーション推進課
毎月1日・15日
☎948-6705 ☎934-2578
http://www.city.matsuyama.ehime.jp/

現場の経験は貴重



大学生防災リーダークラブ
高橋 大希さん
(愛媛大学教育学部2回生)

防災士の資格を取得し昨年からは大学で防災を学んでいます。訓練に参加し、工法を実践できたことと、地域の皆さんと触れ合うことができ、座学とは違った、現場での貴重な経験ができました。

工法を地域で実践したい



浮穴地区自主防災組織連合会
重松 剛会長

学んだことをいざというときに使えるよう地区の防災訓練などで地域住民と共有し実践したいです。重信川が近いので、スムーズな避難についても関係機関と連携して取り組むことが大切だと思います。

土のう作りのポイント

- ①土は袋の6割程度入れる
- ②「止め結び」。指を入れて2回くり、上から通して、指を抜いてきつく縛る
- ③結び口が下流になるよう置く
- ④継ぎ目が重ならないように積む